

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200465		
法人名	株式会社バリアフリーLife		
事業所名	グループホームひだまり とうげ庵		
所在地	唐津市山田4025番地1		
自己評価作成日	令和3年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活環境とご家族様との絆を特に重視し、運営を行っています。その人に合った生活スタイルの確立を重視しています。また、充実した日々が送れるようにメリハリのある生活、新鮮さを一緒に感じることに力を入れています。ご家族様の負担や思いをしっかりと受け止め、お互いのことを思いやれる絆作りが出来ればと職員一同力を入れています。また、認知症による生活環境・絆の低下を防ぐために、ご家族様からご要望があり、「くもん学習療法」を導入し、認知症進行防止や少しでも改善につなげるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山間部に位置したホームであり、ホーム内には入居者と一緒に植えた季節の花が咲いている。ホーム内には季節毎の写真やちぎり絵を飾り、屋内でも季節を感じながら生活できるよう工夫されている。感染症対策を行いながら、地域住民の支援の中で花見や芋堀などのイベントを積極的に開催している他、リクライニング車椅子を使用している入居者も、密にならない場所への散歩に出掛けるよう努める等、地域の中で人や自然と触れ合いながら暮らし続けるための配慮がなされている。入居者、家族、地域がそれぞれに寄り添うことを大切にしたい、温かさのあふれるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寄り添いという理念を掲げ、生き生きとしたその人らしい生活が出来ていけるよう援助している。事業所会議では、カンファレンス、ディスカッションを行うことで、同じ価値観での理念の実施を可能にしえている。	玄関、ホール内に掲示されており、新人研修の中に理念教育を行っている。茶話会でも理念の共有を全職員で把握されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春祭りや、運動会など地域行事等に招待されたり、事業所での行事にも参加して頂いたり、積極的に交流を図っている。	地域の方より、地区のイベント行事に参加し、ホームの行事にも参加してもらっており、お互いに日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での老人会や運営推進会議を通じて、介護分野等の情報提供を行うことにより、地域の高齢者を間接的にではあるが支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表の方、ご家族様代表の方等の貴重な意見を事業所の会議にて報告し、その改善点や実施への取り組みを次の会議にて報告し、確実に少しずつ成長出来るように心がけている。	コロナ感染予防のために、奇数月に書面で開催されており、写真を多く取り入れている。それを各関係機関に個別に訪問して、手渡されている。	すべての家族への周知や要望、意見の聴取に向けた取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、相談・報告を行っている。集団指導の研修に参加している。市の方に毎月入居状況を報告している。	毎月、入居状況報告を行い、ホームでの実情について話をし、唐津市の集団指導研修にも参加されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束は行っていない。 ②外出される時は職員が付き添いを行い、自由に外出して頂けるような体制をとっている。普段より拘束をしないようなケアに取り組んでいる。また、社内研修を行い身体拘束について学んでいる。	身体拘束マニュアルがあり、身体拘束は行っていない。日中の玄関の施錠はせず、身体拘束しないケアに取り組まれている。しかし、身体拘束の研修等は実施されていない。	身体拘束についての学びの研修の場の機会の確保に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事例やチェックポイント等を各職員しっかり把握し、他人事と考えず、身近にあるかもしれない、というしっかりとした意識で業務に取り組んでいる。社内研修の場を持ち、職員の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や社内での勉強会を行っている。また、参加出来なかった者は、研修報告等を行い、確実に知識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には、お客様やご家族様が納得して頂けるまで説明の時間をとり、誤解や不安が残らないように取り組んでいる。また、こちらからお客様に疑問点等を問いかけることを必ず行い解決している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を意見交換の場としたり、苦情対応マニュアルの整備を行い、第三者機関の連絡先・担当部署等を明記し、事あるごとに紹介している。	アンケートをとり、評価、改善ができるように取り組まれている。ホーム内での苦情対応などは管理者が行っているが、全職員に伝え、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①事業所、所長・主任のそれぞれの会議があり、職員の意見を聞いている。 ②定期的に職員と面談し、対話の機会をも行っている。 ③職員間で感謝の気持ちを伝えあう「ありがとうBOX」を作り、職員間のモチベーションアップに努めている。	組織対応として、事業所会議、経営会議が行われている。新入職員には困りごとを尋ねたり、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員とのコミュニケーションを図り、現在思っていることを吸い上げ、可能な限り働きやすい現場に出来る環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①入社時には、新入社員研修にて教育を開始し、個々の力量を測りながら、所長・主任、また課長の判断にて研修・勉強会に参加させている。 ②法人内にて研修を行い、全体に必要なスキル習得や情報を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学や視察受入を積極的に行いながら、情報交換や職員同士のコミュニケーション、知識の向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①事前訪問で関係作りをしっかりと行っている。必要ならば何回でも訪問を行い、関係を事前に作る。 ②これまでの生活環境、趣味趣向、仕事等を把握し、本人の生活スタイルを受容することでコミュニケーションを取りやすくし、本人が安心してもらえるに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問・電話・文書等により、小まめに関係を深めるようにしている。また、看護面に関しては、当事業所の看護師が主治医の先生へ聞き取りを行う等し、安心して利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい確認を取りながら、当事業所も視野に入れ、お客様に合った柔軟な対応を提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①お客様を人生の先輩としての尊厳の気持ちを忘れず、相談・指導・協力を基本として共に生活していくことを徹底している。 ②洗濯物たたみや食器拭き等、残存機能を活かした行動をとって頂き、生活の場の延長と捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護の2面性を十分に理解し、ご家族様の負担や思い、お客様の生活と思いの両面を常に意識し、最良の支援方法を一緒に相談し決定していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①親戚・友人等の面会を支援し、必要であれば外出支援等に努めている。 ②お客様の誕生日会には、ご家族様に参加して頂いている。また、ご家族様と一緒にドライブに行かれる機会を設けている。	家族の希望があれば、車の乗降など外出支援を行っている。また、入居者の希望により、自宅や寺などの馴染みのある場所への外出支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係に常に目を配り、時にはクッションに、時には通訳等になり、一人ひとりが楽しく生活出来るように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設での介護が困難となり、退所されたお客様も病院へお見舞いに伺ったり、お亡くなりになられた時には、葬儀に参列したり、初盆参りやご家族様の顔を見に行く等の関係を築けている。また、施設のイベントには必ずお声をかけをし、気軽に立ち寄れる場所であるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつの中の飲み物の希望等、普段の小さい事からも、希望をとるように心がけている。	思いや意向の困難な方については、家族からの情報をもらい、表情や仕草を確認しながらケアを行い、全職員に情報を伝達している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に徹底して行うようにしている。自己評価項目⑮にも通じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が日々の観察を十分に行っている。また、毎月の事業所会議にてお客様についての話し合いを徹底して行い、多くの視点にて総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①会議にて、よく話し合いプランニングしている。 ②ご家族様、本人様にしっかりと説明し、意見や要望を聞き取り、必要であれば再度見直し、聞き取りを繰り返す、納得のいくプラン作りが出来ている。	日々の支援経過の記録や家族の思いを確認し、半年に一度、新入居者は3ヶ月に一度評価を行い、入居者の状態の変化があった時には、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日々の生活援助を支援記録に記入している。 ②毎月の事業所会議の時に、カンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。 ③毎月月末には、プランの評価を行い、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①買い物に行きたい、散歩に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助をしている。 ②ご家族様の要望には、施設内にてよく話し合い柔軟に対応している。誕生月には、ドライブや外食等、一人ひとりに合った内容を計画し、行うように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、協力機関に協力を求め応じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人様のかかりつけ医を設けて、定期的に住診・受診している。 ②協力医療機関とは、24時間体制で契約している。	かかりつけ医の医療機関より往診があり、眼科、皮膚科、精神科受診が必要なときは、ホーム職員と受診し家族に説明している。検査・手術など家族の同意が必要時には、家族に協力を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や医療活用の支援をしている。小さな気づきも看護師に報告し、早期対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ムンテラの機会を作って頂き、ご家族様も安心して治療出来るよう情報提供・相談しやすい場面を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、看護師、介護職、ご家族様と情報交換し、共に変化に備え、検討し準備している。	ホームでの終末期に向けた支援が行われており、他職種・家族と情報を共有している。終末期と一緒に過ごしたいと家族より申し出があれば、付き添うことが出来る支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備により、全職員が対応出来るように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①消防署と日頃から訓練等でお世話になり連携をとっている。 ②マニュアルの整備にて混乱がないよう訓練している。	消火訓練や避難訓練、通報訓練など年2回の火災訓練が実施されている。水害や台風時などの避難場所の確認については、ハザードマップにて行われてる。備蓄の確認や地震対策については、不十分である。	災害時の備えや地震対策への工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①一人ひとりが人生の先輩として尊敬し、またお客様として人格を尊重し関わっている。 ②一人ひとりのプライドを損なわないよう、またその人の世界を大切に受け入れることを大切にしている。デリケートな介助の場合は、必要であれば同性職員の介助を行っている。	トイレのドアの開閉には特に配慮し、ドアの前にカーテンを設置される等の工夫がみられる。入浴介助時には、本人の希望により同性介護が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①自分がいろいろ決定していくかは、日頃のケアの満足度から生まれる為、ゆったりとその人に合わせ生活をして頂く。 ②一人ひとりの好きなこと、今までしてきたことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①生活の流れを職員側のやり易さに合わせるのではなく、お客様に合わせている。どんなに忙しい時でも話しかけられたら、きちんと向き合い話を聞く。 ②お客様に関わる時は、ゆったりすることを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合った化粧・髪型・服装をして頂き、自分では出来ないところは介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①事前に食べ物の好き嫌いを聞き取り、また状態に合わせた形態で食事を提供している。 ②食事はもちろんのこと、準備や片付け等もお客様と職員と一緒に楽しみながら行っている。	月に2回、手作りおやつの日があり、入居者の希望を取り入れ一緒に調理し、味見や下膳なども一緒に行っている。また、行事食・誕生日食なども楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量の状態を記録し、情報を共有して個々のケアに取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、必ずうがい・歯磨きを行っている。出来ない方は援助している。 ②入れ歯使用の方は、定期的に消毒を行っている。また、食事前には必ず口腔体操を行い、口腔を意識した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。一人ひとりの排泄パターンの把握に取り組んでいる。	排泄チェック表で入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導が行われている。座位保持が可能であれば、トイレでの排泄介助も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①勉強会にて、排泄のメカニズムや便秘対策等の知識を向上させている。 ②日々の中で、出来るだけ自然排便が出来るような工夫(運動や乳製品摂取等)を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりが希望に合わせて入浴が出来るように支援している。 お湯の温度、入浴時間も一人ひとりの希望に合わせている。	週に2回、1対1でのゆっくりとした入浴支援ができており、季節に合った菖蒲や柚子を入れ楽しまれている。また、状態に応じ清拭やベット上で洗髪を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを作り、安眠に繋げている。また、安眠を得られるよう、眠前に温かいものを飲んで頂いたり、足浴の実施、室温調節等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様一人ひとりの薬の効能を知り、医師の指示通りに内服出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の個々の楽しみ、役割が持てるよう入居者の意思を尊重したり、職員から情報を提供して、張り合いのある生活に繋げるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日には、日常的に散歩やドライブ等を積極的に行っている。また、ご家族様と一緒に外出が出来るように支援している。	日常的に散歩やドライブが行われ、また、リクライニング車いすの方でも状態に応じ外気浴ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①希望があった場合、可能な限り速やかに対応している。 ②訴えのない方にも声かけを行い、外出や買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等自由に利用できるよう訴えがある時は、すぐ対応している。訴えがない時は、こちらから声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で、カーテン・家具等を暖色系としており、ほっとするような雰囲気を出している。また、施設内外に季節の花を設置し、季節を味わって頂いている。さらに温湿度計を利用し、快適な空間作りに取り組んでいる。	貼り絵や写真が数多く装飾され、共用空間・個室に季節感が感じられる。不快な足音も全くない。消毒の徹底、換気を行い、温湿度計や加湿器も設置され、快適に過ごせる空間づくりになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを配置し、気の合った者同士でゆっくり会話ができる場所を設けている。また、一人でほっと出来るような場所も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具(毛布)等の生活用品を自由に持ち込んで頂き、その人らしい部屋作りをしている。	入居時に家族と入居者と一緒に家具の配置を決めている。持ち込み禁止の家具ではなく、使い慣れた生活用品で落ち着けるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計や随所に手すりを設置し、自立支援援助を支援している。		